報告文献別一覧表（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

資料No.4－2

No	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 1398-1405	A型肝炎ウイルス（HAV）感染患者の血液および糞便中へのウイルス排泄期間および排泄量と、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）、疾患重症度、HAV遺伝子型との関連を調べた。27例の急性HAV患者でHAVは発症後81日間（中央値）便中に排泄され、半数で36日目でも多量なウイルスの排泄が続いた。ウイルス血症は検出されたが、定量できなかった（中央値42日間）。疾患発症後10日間は、ALT値が高いほど血中ウイルス量が高かった。遺伝子型1aと1bの患者で、HAV排泄および黄疸の期間に有意差はなかった。
2	A型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 356-365	1997-2005年に、デンマーク、ドイツ、オランダ、ノルウェー、スペイン、スウェーデンおよび英国で、男性同性愛者にA型肝炎が大流行した。このA型肝炎アウトブレイクに関連する株の遺伝子学的関連性を調べたところ、これらの国の男性同性愛者から得られた株の大部分はMSM1と名づけられた遺伝子型IAに属する近縁のクラスターを形成していた。同期間に他のリスク群では異なったHAV株が流行していたことから、特異的な株がヨーロッパの男性同性愛者間では流行していたことを示す。
3	A型肝炎	第55回日本ウイルス学会学術集会 2P213	遺伝子型の異なる複数のHAV細胞馴化株における加熱や加圧による不活化効果を検討した。25%アルブミン存在下60℃10時間加熱処理または室温下300～420MPaの1分間加圧3サイクルに対し、HAV細胞馴化株間で不活化効果に差が見られた。Validation試験に使用する株として、加熱や加圧で不活化されにくく細胞で良く増殖するKRM238が適切と考えられた。血液製剤の製造工程に新規不活化法を導入する場合にはValidation試験に使用する株を適切に選定する必要がある。
4	B型肝炎	EMEA/CHMP/BWP/298390/2005 2006年9月21日	EMEAによる、血漿プール中のB型肝炎ウイルス表面抗原(HBSAG)検出のためのイムノアッセイの確認に関するガイドライン。市販キットを使用する際の注意事項、血漿プール試験のためのSOPなどについて述べられている。
5	B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1162-1171	日本赤十字のスクリーニングシステムでHBsAg及び抗B型肝炎コア抗原抗体が陰性であったHBV DNA陽性供血者26名において急性HBV感染におけるウイルスマーカーの動態を調べた。検出可能期間の中央値は、HBV DNAが個別NATで74日、MP NATで50日、HBsAgが42日であった。26名中6名は変異型ウイルスに感染し、うち3名ではHBsAgが検出できなかった。HBV NATは、MPで行ったとしても、HBsAg検査よりも効果的で、HBsAgウインドウ期前後の感染供血者を排除することができる。
6	B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1197-1205	日本赤十字血液センターに保管されている1997-2004年の反復供血者の全供血の遡及調査を行い、ID-NATのみHBV陽性である血液由来の血液製剤の輸血によるHBV伝播リスクを検討した。HBV ID-NATを実施したHBV転換供血者の保管血液15,721本中158検体（1.01%）が陽性であった。スクリーニングをすり抜けたHBc 抗体価の低いオカルトHBVキャリア由来の血液製剤を原因とするHBV感染リスクは、HBsAg発現前やMP-NATウインドウ期の供血による伝播リスクよりも10倍以上低い。
7	B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日	平成19年3月、輸血によるHBV感染が疑われるとの報告が千葉県赤十字血液センターにあった。因果関係の確認のために実施した当該輸血用血液製剤に係る保管検体個別NATは陰性であり、献血者追跡調査を行った。1名の献血者が平成19年1月にB型肝炎を発症したとの情報が得られ、調べたところ、献血者のHBV-DNAは患者のそれと塩基配列が一致した。20プールNAT陰性、HBV保管検体個別NAT陰性であったが、献血者追跡調査により輸血用血液製剤からのHBV感染が示唆された症例であった。
8	B型肝炎	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日 一般演題51	2004年8月よりNATスクリーニングのプールサイズを50から20に縮小した。大阪府赤十字血液センターで検出されたHBV-NAT陽性事例81人を基にプールサイズ縮小の効果等について解析を行った。プールサイズ縮小後に100コピー未満/mLのHBV-NAT陽性者の比率が高くなっていることから、縮小による効果があると思われた。追跡調査、遡及調査及び医師の面談等による総合的な解析によりHBV低濃度キャリアが疑われる献血者がプールサイズ縮小後に多く検出されていることが推察された。
9	B型肝炎、C型肝炎、HIV感染	第31回日本血液事業学会総会 2007年10月 3-5日 シンポジウム4-2	日本赤十字社血液事業本部が関わる安全対策の取り組みと感染症リスクについて報告する。平成16年から18年までの3年間に全国の医療機関から日赤血液センターに報告された輸血関連感染症（疑い症例を含む）の報告数は749例であった。日赤の安全対策の実施によりHBV、HCV及びHIVの感染リスクは減少し、安全性は高くなった。しかし、HCV及びHIVも含め遡及調査の実施により確認された感染症例も少なくない。感染拡大を防止するための安全対策を引き続き講じていく必要がある。
10	C型肝炎	American Society for the Study of Liver Diseases 2007年11月 2-6日	慢性HCV感染患者1930名(感染群)とHCV陰性患者1941名（対照群）とを比較し、リスク因子を検討した。静注薬物使用、1992年以前の輸血および2つ以上の入れ墨は感染群の方が対照群より有意に高かった。入れ墨はHCV感染リスク要因のない患者群においてもHCV感染と強く相関していた。

No	感染症(PT)	出典	概要
11	C型肝炎	Clin Vaccine Immunol published online doi:10.1128	抗HCV抗体陰性で、肝組織中のHCV RNA検出により潜在性HCV感染と診断された110例の患者由来の血清中のGOR抗体反応性を調べた。抗GOR IgG陽性患者は22例(20%)で、慢性C型肝炎患者での陽性率(70/110、63.6%)に比べ有意に低かった。HCVに無関係の肝疾患患者120例では抗GOR IgGは全く検出されなかった。市販の検査でHCV特異抗体を検出できず、血清中HCV RNAが検出できない患者で抗GOR IgG検査を行う事は、肝生検なしで潜在性HCV感染を同定する手助けとなりうる。
12	C型肝炎	FDA/CBER 2007年8月 Guidance for Industry	HCV Lookback規則における要求に一致しているFDAの業界向けガイダンスである。血漿および白血球を含む、全血および血液成分を対象としている。HCV感染を示すドナー検査結果に基づいた、製品の隔離、販売受託者への通知、追加検査、製品の処分、およびレシピエントへの通知等について記載されている。
13	C型肝炎	HPS Weekly Report 2007; 41(23): 189-190	イングランドおよびスコットランドの全域の病院におけるC型肝炎患者の症例記録のレビューが実施された。このレビューは、C型肝炎に感染した2人の医療従事者(HCWs)から患者へのC型肝炎伝播が明らかとなったことに端を発する。2005年に実施された2件の再調査は、このようなC型患者5症例を特定した。これらの患者は当該HCWsによって最も侵襲性の高い処置を受けていた。UKAPの勧告を受け、NHSトラストは他の全ての侵襲性のある処置を受けていた患者に通知を行っている。
14	C型肝炎	HPS Weekly Report 2007; 41(31): 258-265	2007年3月31日までのスコットランドにおけるC型肝炎抗体陽性症例のサーベイランスの結果である。2007年1-3月には新規症例385例が診断された。2007年3月31日までの総計は22456例であり、スコットランド人の260人につき約1名がC型肝炎抗体陽性と診断された。全症例の2%(358例)が血液因子の投与に関連していた。
15	C型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 261-267	2003年4～10月にイタリアの血液透析施設で患者4名にHCV抗体セロコンバージョンが認められた。この4名と以前からHCV抗体陽性であった10名のHCV RNAおよびHCV遺伝子型を検査し、系統遺伝学的解析をした結果、新規感染患者4名のHCVは遺伝子型2cで、2c型慢性感染患者1名から分離されたウイルスと近縁であった。感染制御手段の不備と装置による伝播が疑われた。
16	C型肝炎	J Pediatr 2007; 150: 168-174	60例のHCV感染小児について臨床的、組織病理学的特徴を調べた。感染時の平均年齢は7.1ヶ月であり、感染期間は平均13.4年であった。感染源は輸血(68%)、周産期伝播(13%)およびその両方(7%)で、大部分の症例は無症候性であった。ALTの平均が正常の3倍以上の割合は13%であった。肝生検標本では、71%に極少または軽度の炎症が見られ、12%に線維架橋が見られた。感染時年齢と血清γGTPは、線維症と相関を示した。合併症がない場合には血清ALTは炎症と相関していた。
17	C型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1534-1539	2002年8月28日から2005年2月28日の間にカナダBritish Columbiaのカナダ血液サービス(CBS)に報告された輸血伝播性C型肝炎(TT-HCV)疑い症例について、2002年8月以降実施された公衆衛生局(PH)への届出による影響、ならびにCBSによるHCV遡及(LB)及び追跡(TB)調査の有効性を検討した。LB及びTB調査により多数のHCV感染患者が同定されたが、PHへの届出はほとんど効果がなく、LBまたはTB調査開始の遅延を招いた。
18	C型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 92: 297-301	反復ドナーがHCV陽性を示したため、過去の供血血液を調査したところ、同ドナーの濃縮赤血球を輸血されたレシピエントにおいてHCVが検出された。分子学的解析により輸血によるHCV感染と確定された。ドイツでNATスクリーニング導入後の濃縮赤血球による初めてのHCV感染例である。HCVの感染伝播は個別献血血液検体のNATを実施しても発生する可能性がある。
19	C型肝炎	共同通信 2007年11月14日	C型肝炎ウイルスの混入した輸血用血液が日赤の検査をすり抜けて提供され、輸血を受けた50歳代女性が感染したと思われる事例が、2007年11月14日、厚生労働省の血液事業部会運営委員会で報告された。厚生労働省によると、NATが導入された1999年以降、HCVの検査すり抜けはほぼなくなったが、完全にゼロにすることは困難という。2003、05、06年にも1例ずつ、すり抜けが報告されている。
20	C型肝炎、HIV感染	BMC Public Health 2007; 7: 7	イングランドおよびウェールズ(E&W)における現行の国家サーベイランスシステムによりHIV感染MSM(男性と性交する男性)間のC型肝炎の性的伝播をモニターすることが可能であるかを検討した。1996-2003年の間に38,027例のC型肝炎診断が報告されたが、HIV感染とマッチングした結果、重感染と診断されたMSM数は31例のみであり、推定数680例より少なかった。E&WでHIV感染MSM間の性的伝播C型肝炎をモニターするためには、より強化されたサーベイランスが必要である。
21	C型肝炎、HIV感染	J Infect Dis 2007; 196: 230-238	1984-2003年のアムステルダムコホート研究に参加した男性同性愛者(MSM)1836名をHCV抗体についてスクリーニングしたところ、HIV陽性MSMにおけるHCV発生率は0.18/100人年であったが、HIV陰性MSMでは0/100人年であった。2000年以降、HIV陽性男性間のHCV発生率は10倍の0.87/100人年に増加した。ハイリスクな性行動を行うHIV陽性MSMは性的に獲得されるHCVのリスクであることを示唆している。

No	感染症(PT)	出典	概要
22	C型肝炎、HIV感染	共同通信、The New York Times 2007年11月13日	米国シカゴで、2007年1月に臓器移植を受けた患者がエイズウイルスとC型肝炎ウイルスに感染したことが判った。感染した4人は1人のドナーからの臓器提供を受けていた。感染してから検査で判別できない約3週間の「空白期間」に移植が行われたとみられる。臓器移植でエイズウイルスに感染した例は22年ぶりである。
23	E型肝炎	Arch Virol 2007; 152: 1623-1635	日本においてHEVの不顕性感染が増加しているかを調べるため、1991-2006年の献血者のうちHEV感染の可能性のあるALT 61IU/L以上の4019名から得られた血清検体中の抗HEV IgG、抗HEV IgMおよびHEV RNAを調べたところ、2004-2006年の献血者のHEV陽性率は1998年のそれと同等であった。またALT 201IU/L以上の献血者についても1991-1995年、1996-1999年および2004-2006年でHEV陽性率の差は見られなかった。
24	E型肝炎	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1682-1688	中国南部の人々のHEV感染について調べたところ、家の近くでブタを飼っている8つの共同体で得られたHEV分離株24中23はジェノタイプ4株であった。IgG抗HEV血清有病率は、60歳以下では1歳毎に約1%ずつ増加した。30歳以上では血清有病率は女性より男性で高率に増加した。全体の血清有病率は43%であった。感染率は25-29歳で高かった。HEV感染は中国南部では少なくとも60年間、風土病であり、ブタがヒトHEV感染の主な宿主であることが示唆された。
25	E型肝炎	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1094-1096	フランスの41歳女性が1ヶ月程、疲労感が続いたため、血液検査をしたところ、肝酵素値の著しい上昇を示し、HEV抗体、HEV特異的IgMおよびHEV RNAが検出され、E型肝炎と診断された。症状の出る8週間前に患者はフランス生まれのベトナムブタを飼い始めており、そのブタの血清から、HEV RNAが検出された。ブタのHEVは患者と同じ遺伝子型3で、ヌクレオチドで92%、アミノ酸で98%の相同性を有した。
26	E型肝炎	Infect Genet Evol 2007; 7: 368-373	エジプトCairoの労働馬をHEV暴露およびウイルス血症のエビデンスのため調査した。200頭からの血清検体中13%がIgG抗HEV抗体陽性であった。N-PCRにより100検体中4%でウイルス遺伝子が検出され、ウイルス血症のウマは1歳未満で、PCR陰性のウマに比べAST値の有意な上昇を示した。系統遺伝学的分析の結果、ウマ由来のウイルス株のHEV遺伝子は、エジプトでの2つのヒトHEV分離株と97-100%のヌクレオチド相同性があり、密接な関係を示した。
27	E型肝炎	J Gen Virol 2007; 88: 912-917	米国の地方の食料品店で売られている市販のブタレバー中にHEVが存在するかを調べるため、ブタレバー127パックを購入し、4つのHEVジェノタイプ全てを検出できるRT-PCRアッセイによって調べた。127検体中14例がHEV RNA陽性で、全てジェノタイプ3であった。PCR陽性のブタレバーホモジェネート3例をブタに接種したところ、3例中2例が感染した。市販のブタレバーには感染性のあるHEVウイルスを含有しているものがあることが明らかとなった。
28	E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	日本におけるアラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)高値供血者の無症候性E型肝炎感染の現況を調べた。日本赤十字血液センターでALT高値(61-476 IU/L)の献血者6700名の血清検体を検査したところ、479名(7.1%)の供血者が抗HEV IgG陽性であった。ALT≧201 IU/L群はHEV RNA有病率が有意に高かった。ウイルス血症を発症した供血者9名から得られたHEV分離ウイルスは遺伝子型3に分類された。ALT≧201 IU/Lの日本人の約3%はHEV株の無症候性感染を有することが示された。
29	E型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 283-288	英国サウスハンプシャーの単一施設において2005年6月から13ヶ月間にE型肝炎13例が発生した。これらの患者はルーチンのE型肝炎血清検査を導入開始後に特定された。同一期間中A型肝炎は2例、B型肝炎は4例であったことから、原因不明の急性肝疾患を発症し、関連する渡航歴のない患者全員にルーチンのE型肝炎検査を実施することが重要と考えられる。
30	E型肝炎	J Virol Methods 2007; 143: 112-116	オランダのブタにおけるHEV感染率を調べるため、97の養豚場で糞中のHEVの存在を検査した。HEV感染率は2005年では55%(53/97)で、1999年の22%(25/115)に比べ有意に増加した。しかし、2005年の検体を、1999年の測定と同様に希釈せず、内部標準なしで測定すると30%の感染率となり、有意差はなかった。糞中にはRNA PCR阻害物質が含まれるため、未希釈の検体では検出率が33%であったのに対し、10倍希釈した検体では55%であった。
31	E型肝炎	Vox Sanguinis 2007; 93(Suppl.1): P203	2005年1月-2006年4月に北海道で献血者のHEV-RNAスクリーニングを行った。388,119名のうち、男性33名(1/7,120)、女性22名(1/6,962)がHEV-RNA陽性で、genotype 3が優勢であった。55名中40名は献血時のHEV抗体陰性であり、後に陽性となった。HEV陽性者にはALT値が上昇した人もいたが自覚症状はなかった。HEV-RNAは献血後、最長37日間検出された。HEV陽性献血者由来の輸血を受けた患者7名のうち、少なくとも2名が感染した。
32	E型肝炎	肝臓 2007; 48(Suppl.1): O-178	発症前からのウイルス血症の推移、肝炎発症から沈静化までの経過を観察しえた輸血後E型肝炎2例の症例報告である。1例は輸血21日目にHEV RNA (genotype 4)が検出され、44日目にピーク値を、もう1例は輸血後3日目にHEV RNA (genotype 3)が同定され、54日目にピーク値を示した。HEVウイルス血症は潜伏期間を経て発現し、対数増殖後約50日前後にピークを示し、その直後にAST、ALT上昇と血中抗HEV抗体の出現を順に認めた。

No	感染症(PT)	出典	概要
33	E型肝炎	第55回日本ウイルス学会学術集会 2P207	HEVに感染したブタ糞便より精製した4種のHEVは、ウイルス除去膜PLANOVA15Nおよび20Nで全て検出限界以下にまで除去された。液状加熱実験では、PBS組成では加熱開始後短時間で全て検出限界以下となったが、アルブミン存在下では4株とも加熱開始後5時間目でも検出された。HEVは熱に弱いと考えれられていたが、条件によって不活化効果が異なることから、血液製剤や加工食品において慎重に不活化効果を検討しなければならない。
34	E型肝炎	徳島新聞 2006年10月26日	北海道東部に住む50-70代の男女4人がE型肝炎ウイルスに感染し、発症した。同一飲食店や自宅で十分に加熱していない豚の内臓を食べたためと考えられる。4人の血液から検出されたHEVは塩基配列が一致した。厚生労働省や北海道はこの件を公表せず、養豚場の検査もしていなかった。
35	G型肝炎	Epidemiol Mikrobiol Imunol 2006; 55: 136-139	チェコ共和国における静注免疫グロブリン(IVIG)投与患者の血清中におけるHGV陽性率を調査し、HGV陽性に関係したリスクを検討した。IVIG投与患者86例の内20例(23%)が、HGV RNA陽性であった。その内3例には肝機能検査値の緩やかな上昇が認められ、また1例は慢性リンパ性白血病であったが、IVIG投与前に診断されていた。IVIG投与患者のHGV感染率は高いが、肝疾患又はリンパ増殖のいずれの兆候とも関連していないと結論付けられる。
36	HIV	asahi.com 健康 2006年9月4日	日本人で初めてHIV2型の感染者が確認された。この男性は過去に西アフリカで輸血を受けたことがあり、このときの輸血が感染源とみられている。厚生労働省は1型だけでなく、2型についても検査体制を徹底するよう通知した。
37	HIV	BBC NEWS online 2007年6月27日	カザフスタンShymkentの病院で治療を受けた後、少なくとも119例の小児および新生児がHIVウイルスに感染し、これまでに10例が死亡した。HIVアウトブレイクは昨年見つかり、症例数は増加を続けている。腐敗や医療過誤がアウトブレイクを引き起こしたとして、被告である21名の医療関係者は全員有罪となった。
38	HIV	Clin Infect Dis 2007; 45: e68-e71	ボツワナで急性HIV-1感染スクリーニング中に特定された抗体陰性のHIV-1サブタイプC感染の初の症例を報告する。HIV-1抗体検査の結果は、迅速検査、通常の酵素免疫測定法及びウエスタンブロットで全て陰性であった。遺伝子組換えがないHIV-1サブタイプC感染は、ウイルスのgag、pol及びenv遺伝子のジェノタイピングによって確定された。臨床的に安定した状態からAIDS関連死までの期間は約3ヵ月だった。サブタイプCが優勢なアフリカ南部における血清学検査陰性HIV-1感染の調査の重要性が示された。
39	HIV	EMEA/CHMP/BWP/298388/05 2006年9月21日	EMEAによる、血漿プール中の抗HIV抗体検出のためのイムノアッセイの確認に関するガイドライン。市販キットを使用する際の注意事項、血漿プール試験のためのSOPなどが述べられている。
40	HIV	Eurosurveillance 2007; 12(5): E070524.5 2007年5月24日	AIDS最新号において、LikatavicisらはEuroHIV surveillance network によるヨーロッパの供血血液のHIV陽性率についての14年間のモニタリングデータを提示した。この分析は、1990-2004年のWHO欧州地域のデータが網羅されている。2000-2004年の10万供血中の平均HIV陽性率は西欧1.7、中欧3.4、東欧36.7であった。1990年以降の変化では、西欧で低下、中欧で横ばい、東欧では急激な上昇が認められた。
41	HIV	FDA/CBER 2007年5月23日	男性間性交渉者(MSM)からの供血に関するFDAの方針として、合衆国でAIDSの流行が始まった1977年以降は供血者として延期されている。MSMはHIV、HBVおよび他の感染のリスクが高いからである。米国赤十字によるとMSMのHIV有病率は一般集団の60倍、初回供血者の800倍、リピート供血者の8000倍高い。HIV検査は非常に正確であるが、HIVには感染後もHIVを検出できないwindow期がある。FDAは受血者を守るため、科学的なエビデンスが得られるまで、この方針を継続する。
42	HIV	J Acquir Immune Defic Syndr 2007; 45: 581-587	中国Beijingで男性とセックスをする男性(MSM)におけるHIVおよび他の感染性疾患の有病率ならびにリスク行動を調査した。2004年は325名、2005年は427名、2006年は540名のMSMが参加した。HIV感染率は2004年には0.4%、2005年には4.6%、2006年には5.8%であった。この増加は梅毒の増加、自己報告による性行為感染症既往の増加、多数の性交相手を持つ割合の増加、コンドームの使用率の低さと関連していた。
43	HIV	Lancet 2007; 369: 621-623	2002年の国連レポートや米国国家情報会議は、中国には約100～200万人のHIV/AIDS患者がおり、感染爆発の危機が迫っているとしたが、2006年までの生存患者数は65万人と見積もられた。感染規模の過大な予測から、中国では様々な問題が生じた。HIV/AIDS対策に多大な予算を掛けたために、喫煙、結核など他の健康問題への対策が十分ではなかった。中国でのHIV/AIDS対策はハイリスク地域を中心に行うべきである。

No	感染症(PT)	出典	概要
44	HIV	Lancet 2007; 369: 623-625	2006年末までに台湾CDCに13702名のHIV-1/AIDS感染者が 報告された。2003年以降、HIV-1/AIDS感染生存者は急増し、台湾のHIV-1/AIDS感染者数は約3万人と推測され、台湾の感染率(2300万人中3万人; 1/767)は中国(13億人中65万人; 1/2000)よりも高い可能性が示された。リスク要因分析によると、静注薬物使用者の感染率は2005年には72.4%(2461/3399)であった。また垂直感染は2006年末までに19例が確定された。
45	HIV	ProMED-mail20070215.0569	カザフスタン南部において、新たにHIV感染症症例が記録され、91例(小児)に増加した。地方病院の患者である0～5歳の小児である。このうちの8例は既に死亡した。また、そこで治療を受けた母親13例も感染した。原因として、汚染された血液の輸血や、器具やシリンジの再使用が考えられる。
46	HIV	Vox Sanguinis 2007; 92: 113-120	20名の血友病患者が、1990年初頭以降、韓国で製造された血液凝固第IX因子の投与を受けてから1～2年後にHIV-1に感染していると診断された。血漿ドナーと血友病患者で検出されたウイルス間の遺伝子関連性を調べた結果、両者とも、HIV-1サブタイプBの韓国subcladeに感染していた。韓国で売血ドナーの血液から製造された凝固因子により、少なくとも20例の血友病患者がHIV-1サブタイプBに感染したことが明らかとなった。
47	HIV	第81回日本感染症学会総会・学術講演会 ポスターP26-1	これまで国内でのHIV-2感染症例はいずれの報告も外国籍患者であった。今回、日本人初のHIV-2感染例を経験した。77歳男性で、36年前セネガルで輸血歴がある。2006年6月、気管支喘息発作で入院となり、入院時HIVスクリーニング検査(ELISA)でHIV抗体高値となった。その後、Western Blot法による確認検査により、HIV-1抗体陰性HIV-2抗体陽性となった。遺伝子解析の結果、HIV-2サブタイプAに属し、セネガル株(60415K株)に最も近縁であった。
48	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚労省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
49	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界的にも感染例の少ないHIV2型に日本人が初めて感染したことが4日分かった。厚労省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。現地での輸血が感染原因とみられる。
50	HTLV	American Society of Hematology 2007年12月8-11日	1999年1月～2006年12月に長崎で献血を行った初回献血者の年齢別、出生年別および期間別HTLV-1血清陽性率の傾向分析を行った。血清陽性率は年齢が高くなるにつれ有意に増加した。また1987～1990年に生まれた献血者では1985～1986年に生まれた献血者と比較して有意に低かった。ウイルスキャリアの母親の授乳を避ける事を指導した県の対応が陽性率の低下に貢献していることが示された。
51	インフルエンザ	CDC INFLUENZA (FLU) 2006年12月6日	ブタインフルエンザに関するQ&A。ブタインフルエンザはA型インフルエンザであり、ブタにおいてインフルエンザのアウトブレイクを引き起こす。通常、ヒトには感染しないが、散発的にヒトでの感染が発生する。ここ数年間ではCDCは平均して年に1例のヒト陽性患者からのブタインフルエンザ分離株に関する報告を受け取っている。ブタと直接接触するヒト(例えば、養豚業者)で発生している。ヒトからヒトへ広がった例は稀である。
52	インフルエンザ	Science 2007; 315: 655-659	1918インフルエンザウイルスのヘマグルチニン受容体結合部位のごくわずかな変化により、ウイルスの伝播性が変化することが示された。2つのアミノ酸変異によって、ヒトのα-2,6シアル酸からトリのα-2,3シアル酸へと転換すると、フェレット間で呼吸器飛沫による感染を起こさないウイルスとなった。さらに、α-2,6およびα-2,3双方に特異性のある1918ウイルスは感染性が低かった。ヘマグルチニン受容体特異性が、哺乳類におけるインフルエンザ伝播に本質的な役割を果たす。
53	インフルエンザ	Sioux City Journal Online	米国アイオワ州東部の住民1名がブタインフルエンザと確定診断された。患者は入院しておらず、回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はない。
54	鳥インフルエンザ	Ann N Y Acad Sci 2006; 1081: 171-173	タイ南部で自然感染した日本ウズラの卵白と尿膜液混合液を含む卵の内容物と、卵管からトリインフルエンザウイルスが回収された。発育鶏卵の絨毛尿膜嚢接種によりウイルスを分離し、rPCRによりH5N1亜型インフルエンザAウイルスと確定した。またウイルス抗原は複数の組織の実質で検出された。ウイルス抗原が全身に存在したことからウイルス血症の段階であると考えられた。アウトブレイク地域からの卵の移動や卵の消費によるウイルス汚染や拡大に対し安全対策をとる必要がある。

No	感染症(PT)	出典	概要
55	鳥インフルエンザ	asahi.com 2008年1月10日	中国衛生省は2008年1月10日、中国南京市で鳥インフルエンザ(H5N1型)に感染して死亡したの息子から、父親への感染を確認したと発表した。中国で人から人への感染が確認されたのは初めてである。ウイルスが新型に変異すると大流行する恐れがあるが、遺伝子の変異はないとしている。
56	鳥インフルエンザ	CDC Emerg Infect Dis 13(9) 2007年9月	インドネシア北スマトラおよびトルコ東部の家族群で観察された高病原性トリインフルエンザAサブタイプH5N1感染が、ヒト-ヒト伝播によるものであるかを調べるため統計的方法を用いた。感染の2次的発病率(SAR)および局所的基本再生産数(R0)を見積もった。スマトラの例についてはヒト-ヒト伝播の統計的エビデンスが得られたが(p=0.009)、トルコについては統計的エビデンスは得られなかった(p=0.114)。
57	鳥インフルエンザ	China View, www.chinaview.cn 2008-01-10	2007年12月に江蘇省南京で発生した52歳男性の鳥インフルエンザ感染患者は、患者であった息子との濃厚な接触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められていない。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家禽との接触がないため、息子の感染源は明らかになっていない。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は12月3日に発症したが回復した。ヒト用トリインフルエンザワクチンは臨床試験Phase IIの段階にある。
58	鳥インフルエンザ	Curr Opin Infect Dis 2006; 19: 401-407	中国ではヒトと食用動物とが密接に接触するため、多数の微生物が動物からヒトへ伝播する。重症急性呼吸器症候群(SARS)とトリインフルエンザは動物を起源とするウイルス感染で呼吸経路で伝播する。これらの発生、増幅、拡大における中国生鮮市場の役割について総括した。中国生鮮市場では食用動物や野生動物が生きたまま売られているため、遺伝子の再配列、組換え、突然変異のような種々のメカニズムにより、ウイルスは新しい遺伝子を獲得したり、存在する遺伝子が修飾される。
59	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1081-1083	高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1)を含むインフルエンザウイルスが、血液安全性の脅威となるおそれがある。ミニプール核酸増幅法を用いて10,272例の血液ドナー検体を分析した。この検査法の測定感度は、一般的インフルエンザウイルス用プライマーについては804 geq/ml、インフルエンザ(H5N1)サブタイプ特異的プライマーでは444 geq/mlであった。インフルエンザウイルスに対して、このようなスクリーニング検査が可能であることが示された。
60	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1219-1221	イヌにおけるトリインフルエンザ(H5N1)の感染性を調べた。ビーグル犬3匹の鼻腔内と気管内に同ウイルスを接種したところ、病気の兆候は示さなかったが、1匹で接種後1-4日目の鼻スワブからPCRによりウイルスが検出された。全てのイヌで14日目の血清からH5N1に対する抗体が検出された。結合試験の結果、同ウイルスはイヌの上部および下部気道組織に接着することが明らかとなった。イヌは臨床症状は示さないが同ウイルスに感染し、ウイルスを拡散させる可能性がある。
61	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 130-132	カンボジアの田舎の村民における家禽取り扱いに関する知識、態度および実践を調査した。Prey VengおよびKampong Cham地方のH5N1高危険性コミューンにある25村各々から15歳以上の20人、計500人を目標に、2段階の世帯ベースのクラスター調査を行った。トリインフルエンザおよび個人的防護手段に関して広い知識があるにもかかわらず、大部分の田舎のカンボジア人は危険性の高い家禽の取り扱い方をしていることが示された。
62	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1348-1353	2006年5月にインドネシアのスマトラ北部でおよび2005年12月にトルコ東部の家族で観察されたトリインフルエンザH5N1の集団が、ヒト-ヒト伝播によるか否かを統計的方法を用いて調べた。スマトラの例ではヒト-ヒト伝播の統計学的エビデンスが見られ、概算された2次感染率は29%、局所的増殖数の下限値は1.14であった。トルコの例ではヒト-ヒト伝播のエビデンスは得られなかった。
63	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1601-1603	2006年にイスラエルの多数の養鶏場で発生した高病原性インフルエンザ(H5N1)のアウトブレイクについて疫学的研究を行い、その時の対策をまとめた。同ウイルスは最近インドネシアで分離されたインフルエンザH5N1ウイルスとは分子的特徴が異なった。イスラエルでのアウトブレイクは9施設中6施設が七面鳥農場であった。迅速な対応により、アウトブレイクは17日間で治まり、2007年8月まで再発していない。
64	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1720-1724	3種類の野生の陸鳥のインフルエンザA(H5N1)に対する感受性と伝播性について調べた。スズメは最も感受性が高く、66-100%が4-7日以内に死亡した。ムクドリは高レベルのウイルスが検出されたが、死亡例はなかった。ハトが最も感受性が低かった。接触した鳥への伝播はほとんど起こらなかった。最近のインフルエンザウイルスH5N1ウイルスは一部の陸鳥に対し、病原性はあるが、同種間での伝播率は非常に低い。
65	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 149-151	農場で生まれた合鴨とガチョウを実験施設で育て、2種類の異なった遺伝子型のトリインフルエンザH5N1ウイルス(A/chicken/Yamaguchi/7/2004およびA/chicken/Miyazaki/K11/2007)を鼻腔内に接種し感染性を調べた。ガチョウ1羽で角膜混濁が見られた外は臨床症状は見られなかったが、皮膚からはウイルスが分離され、羽毛表皮細胞からはウイルス抗原が検出され、ビリオンが観察された。両ウイルスは家禽のアヒルとガチョウの羽毛表皮細胞で複製され、羽毛が感染源となる可能性が示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
66	鳥インフルエンザ	Lancet 2007; 370: 1137-1145	H5N1インフルエンザウイルスに感染した男性1名および妊婦1名とその胎児の剖検組織を調べた。肺のⅡ型上皮細胞、気管の上皮細胞、リンパ節のT細胞、脳の神経細胞及び胎盤のホフバウエル細胞と細胞栄養層でウイルス遺伝子配列と抗原が検出され、腸粘膜ではウイルス遺伝子配列のみが検出された。胎児では肺、末梢単核細胞、肝マクロファージに遺伝子配列と抗原が検出された。本ウイルスは肺だけでなく気管に感染し、脳を含む他の器官に拡がり、また胎盤を通過し、母親から胎児にも伝播しうる。
67	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070110.0097	中国東部の37才の農夫がトリインフルエンザH5N1株に感染していることが確認された。2006年7月以来のトリインフルエンザ症例であると、2007年1月10日に発表された。症例は2006年12月10日に発症し、全快後、2007年1月6日に病院を退院した。検査でH5N1株陽性であったことが確認された。付近の家禽でトリインフルエンザのアウトブレイクはみられていない。2003年以来、中国では22例のヒト症例が報告されており、うち死亡例は14例である。
68	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070111.0119	韓国保健省は2007年1月11日、養鶏場作業員が2006年末にトリインフルエンザに感染したが、重症ではなかったと発表した。患者は2006年11月に養鶏場で発生したH5N1株のアウトブレイク後に感染した。
69	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070120.0260	2007年1月18日、農林水産省は、宮崎県の養鶏場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスによるものだったと明らかにした。同省は養鶏場で死亡した鶏から採取したウイルスのサンプルを検査して病原性が高いものであることを確認した。H5N1型ウイルスの流行は、宮崎県清武町の谷口孵卵場黒坂農場で発生し、3つある鶏舎のうち1つで3500羽の鶏が死亡した。
70	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070304.0752	2007年2月27日にトリインフルエンザH5N1株に感染していることが確認されたFujian省の農業に従事している女性(44才)は、病院において治療を受けている。患者は急激に肺炎症状を呈し、入院後昏睡となった。中国における23例目のトリインフルエンザ症例である。女性は死亡した家禽との接触が確認されている。女性に対してヒトの回復期血清(2006年12月にトリインフルエンザH5N1株に感染したが、その後回復したAnhui省の農業従事者からの血清)を治療に使用した。
71	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070320.0975	香港でトリインフルエンザH9N2株に感染した生後9ヵ月の女児が病院で隔離されたと2007年3月20日に保健当局は発表した。本症例は2007年3月4日に発病する前は、ほぼ毎日、生きた家禽を販売する食料品市場を訪問していた。この患児は市場でトリから感染したのではないかと疑われている。H9N2株はトリインフルエンザAウイルスの弱毒株である。
72	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070329.1080	中国保健省は、東部Anhui省におけるトリインフルエンザの新規ヒト症例(男、16才)を確認した。この症例は2007年3月7日に発症し、3月18日に入院したが、3月27日に死亡した。中国CDCの検査により、本症例はトリインフルエンザウイルス株H5N1に感染していたことが確認された。2003年以降の中国における24例目のトリインフルエンザ症例、15例目の死亡例である。
73	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070928.3212	N5N1トリインフルエンザウイルスは妊婦の胎盤を通過可能であり、胎児に感染することが北京大学の研究者らにより報告された。またウイルスが肺だけでなく、胃腸管、脳、肝臓および血液細胞へ拡がるとのエビデンスが示された。
74	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20071208.3967	中国Jiangsu省保健局は2007年12月2日に当局はJiangsuで高病原性トリインフルエンザのヒト症例を確定したが、この患者(24歳男性)は多臓器不全で死亡したと発表した。家禽との接触歴はなかったが、発症の20日前にイヌに咬まれたとのことである。また、この患者の52歳の父親もH5N1トリインフルエンザと確定されたが、生存している。感染の原因は調査中である。
75	鳥インフルエンザ	Reuters Foundation AlertNet 2007年9月27日	H5N1トリインフルエンザウイルスは妊婦の胎盤を通過して胎児に感染することができると研究者が報告した。ウイルスは肺だけでなく胃腸管、脳および血液細胞にまで達することも証明された。また、ウイルスは免疫系の一部を過剰刺激し「サイトカインストーム」を起こすだけでなく、マクロファージに障害を与えるなど免疫系の他の部分を抑制することが示唆された。
76	鳥インフルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンの低温殺菌、静注用免疫グロブリン(IVIG)のSD処理、第Ⅷ因子インヒビターバイパス複合体製剤の蒸気加熱、及びIVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルス不活化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンベロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルス不活化処理によって効果的に不活化された。

No	感染症(PT)	出典	概要
77	鳥インフルエンザ	WHO/ Avian influenza 2007年2月27日	2007年2月27日、ラオス保健省はH5N1トリインフルエンザウイルスの初めてのヒト感染症例を報告した。Vientianeの15歳女性で、2月10日にインフルエンザ様症状を呈し、15日に入院した。17日にタイの病院に移り、現在、安定した状態である。タイの国立保健研究所による検体検査で、H5N1感染陽性と確定された。少女と接触のあった大人はオセルタミビルの予防的服用を行った。今までのところ全員健康である。
78	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月15日	パキスタンにおけるトリインフルエンザの状況：パキスタン保健省はPeshawar地域におけるH5N1トリインフルエンザのヒト疑い症例8例をWHOに報告した。これらの症例は家禽におけるH5N1アウトブレイクに対する処分後に発見された。1例は回復したが、さらに2例の疑い症例が死亡した。疑い症例の検体は国立研究所の検査でH5N1陽性であったが、WHOで更に確定・分析中である。
79	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年12月4日、2007年12月9日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update4)：2007年12月4日、中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスの新規のヒト感染症例を報告した。症例はJiangsu省の24才の男性で、12月2日に死亡した。中国での確定例は26例で、うち17例が死亡している。(update5)：2007年12月9日、中国衛生省は同ウイルスの新規ヒト感染症例を報告した。Jiangsu省の52才の男性で、12月2日に同ウイルス感染で死亡した24才男性の父親で、現在入院中である。
80	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年2月3日	2007年2月3日、ナイジェリア政府は死亡したLagos出身の22歳女性からA/H5N1トリインフルエンザウイルスが検出されたと発表した。ナイジェリアの研究所で陽性となり、WHO協力センターで確定された。感染源を特定するために更に調査中である。この患者との接触者からの検体は陰性であった。ナイジェリアでは家禽でのアウトブレイクでH5N1ウイルスが同定されており、トリインフルエンザによる散発的なヒト感染症例は予想された。
81	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年3月8日	ラオス人民民主主義共和国の保健省は同国で初めてのH5N1トリインフルエンザによる死亡例を確定した。Vientianeの15歳女性で、2月27日に感染が発表され、タイの病院に入院後、3月7日に死亡した。
82	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年5月30日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update2)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザウイルスによる新規のヒト感染症例を報告した。5月23日に確定診断された。この症例はFujian省に駐留していた19才の兵士で、5月9日に発症し、5月14日に入院した。病気のトリとの接触は確認されていない。中国での確定例は25例で、うち15例が死亡している。
83	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年6月4日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3)：中国衛生省は同国で16例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによる死亡例を報告した。症例はFujian省に駐留していた19才の兵士で、6月3日に死亡した。中国での確定例は25例で、うち16例が死亡している。
84	鳥インフルエンザ	YAHOO!ニュース(毎日新聞) 2007年1月16日	2007年1月16日、農林水産省は、宮崎県清武町の谷口孵卵場黒坂農場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスH5N1型によるものであることを確認したと発表した。アジアを中心に鳥から人への感染が続く強毒型の可能性が高く、遺伝子解析をして感染経路を究明する。厚生労働省は国内での人への感染の危険は低いと見ている。
85	鳥インフルエンザ	英国保健省 2007年3月20日	2007年3月20日現在、感染したトリとの接触の結果、ヒト281名がトリインフルエンザに感染し、その内189名が死亡した。H5N1がヒトからヒトへ簡単に伝染する能力を獲得したとの明確な根拠はないが、ウイルスがこの能力を獲得するか、またはヒトのインフルエンザウイルスと混ざって新しいウイルスを作ることが懸念されている。2007年2月3日にSuffolkで家禽にH5N1アウトブレイクが発生したが、現在のリスクレベルは極めて低い。
86	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(10): 35-37	高病原性鳥インフルエンザの発生した京都府丹波町で冬季に活動するハエ類の分布調査を行い、採取したオオクロバエとケブカクロバエからH5N1亜型インフルエンザウイルス遺伝子が検出され、一部から感染力のあるウイルスが分離された。両クロバエは冬に繁殖し、移動能力も高く、鳥インフルエンザに感染したニワトリの糞と一緒にウイルスを取り込んで伝播した可能性が示唆された。
87	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(11): 40-43	農場周辺で採取したクロバエの消化管からRNAを抽出し、鳥インフルエンザウイルスの検出と分離を行ったところ、マトリックス蛋白質とヘマグルチニンの遺伝子断片を検出し、強毒タイプであることが確認された。またオオクロバエの消化管から分離されたウイルスはH5N1亜型で、鳥インフルエンザで死亡したニワトリから分離したウイルスと同一であった。ウイルスはオオクロバエの体内で24時間感染性が維持され、伝播する可能性が示唆された。

No	感染症(PT)	出典	概要
88	鳥インフルエンザ	鶏の研究 2007; 82(12): 36-39	ニワトリは近くを飛び回るハエを捕まえて食べる習性がある。クロバエ類が鶏舎への高病原性鳥インフルエンザ伝播の一要因であるとすると、一般的なイエバエ科の施設内での駆除方法をクロバエ対策に踏襲するのは不十分で、鶏舎内へのハエの侵入を阻止する対策が必要であろう。クロバエ類が通過できない大きさの格子でできた粗めのネットを鶏舎開放部に張るという物理的手段も検討に値すると考えられる。
89	鳥インフルエンザ	第55回日本ウイルス学会学術集会 2007年10月21-23日 216	2007年に宮崎および岡山県で発生したH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザの発生例から分離したウイルス4株の全塩基配列を決定し、また、病原性について調べた。4株は遺伝学的に極めて近縁であり、2005年中国青海湖で死亡した野鳥から分離された系統に属していた。鶏では接種鶏全てが死亡した。50%マウス致死量は5x100EID50であった。またウイルスは接種マウスの肺だけでなく脳からも回収された。
90	ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(4): 76-79	ID-NATを用いた強化スクリーニング開始以降に、初めて西ナイルウイルス輸血感染症例が報告された。2006年に免疫不全患者2例が、感染ドナー1例(献血時のMP-NATの結果は陰性)由来の血液製品を投与された後、西ナイル神経侵襲性疾患を発症した。今回の例はID-NATは実施されておらず、ID-NATトリガーを促進することが重要である。
91	ウエストナイルウイルス	Pediatrics 2007; 119: e666-e671	2003年以降の授乳中の母子におけるWNV疾患の報告を収集し、全症例を検討した。報告された10例のうち、5例は母乳を介した感染の可能性が除外できないかまたは確認できない症例であった。他の5例については血清学的検査により垂直感染が否定された。また、妊娠中に感染した女性の母乳検体を調べたところ、45検体中2例でWNV RNAが、14例でWNVに対するIgM抗体が検出された。母乳を介するWNVの感染は極めて稀ではあるが、更なる研究調査が必要である。
92	ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20070809.2583	2007年8月2日、米国カリフォルニア州の3郡(Kern、ColusaおよびSan Joaquin)ででウエストナイルウイルスが発生していることに関して知事が緊急事態を宣言した。これら3郡では今年4例が死亡しており、感染は急速に拡大している。前年同期と比較して感染者数は3倍である。中心地はKern郡とされ、州全体での症例数56例の3分の2が記録されている。
93	ウエストナイルウイルス	The New York Times 2007年7月26日	米国におけるウエストナイルウイルス症例数は1年前の約4倍であり、大流行がおこる可能性があると政府研究者が報告している。昨年は米国で4,269症例が報告され、この中には1,495例の脳症が含まれ、177例が死亡した。今年はこれまで122症例が報告され、カリフォルニア州と南北ダコタ州で最も多いが、昨年の同時期は33例のみであった。今年は既に脳症が42例および死亡が3例ある。
94	ウエストナイルウイルス	第144回日本獣医学会学術集会 2007年9月2-4日	ウエストナイルウイルスは、近い将来、日本にも侵入する可能性があるため、日本産蚊の室内継代株を用いて増殖・媒介能を調べた。アカイエカ、ヒトスジシマカ、オオクロヤブカでウイルス注入実験を、アカイエカ、ヒトスジシマカで吸血実験をしたところ、全種類の蚊においてウイルスの増殖が観察された。媒介試験では、アカイエカ注入、吸血両群、ヒトスジシマカ2系統の注入群、1系統の吸血群では供試したすべてのマウスが12日以内に死亡し、死亡したマウスからはWNV が検出された。
95	ウエストナイルウイルス感染	Hoy Digital エストレマドゥーラ新聞 2007年3月21日	ABC新聞は昨日、スペイン国内初のナイルウイルス感染者の診断結果を発表した。21歳男性が2004年にバルベルデ・デ・レガネースで蚊に刺され感染した。発見者の研究グループはナイルウイルスの研究を2003年から始め、3年間、病院で検出されたウイルス性脳膜炎や髄膜炎の症例からナイルウイルスを探し求めてきた。
96	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年12月18日	2006年8月9日、北Albertaの農場で牝牛が短期間の神経学的症状を呈した後、死亡した。2006年8月23日、CFIAはBSEであると確定した。カナダにおける8頭目のBSE牛である。死体は確保され、焼却された。どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。このウシはCharolais交雑牛で、死亡時8歳から10歳と推定された。誕生した農場が不明のため、飼料調査は行う事ができなかった。
97	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年2月7日	2007年2月7日、CFIAはAlbertaの成牛はBSEであると確定した。カナダにおける9頭目のBSE牛である。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。予備的情報ではこのウシは生後1年目に少量の感染物質に暴露したと考えられる。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。
98	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2007年3月26日	2007年2月7日、CFIAは、2007年1月20日から22日の間に体調不良の後死亡したAlbertaの肉牛はBSEであると確定した。カナダにおける9頭目のBSE牛である。死体は管理され、どの部位もヒト食料または動物の餌システムに入っていない。このウシは死亡時79月齢の未登録Angus雄牛であり、当該農場で出生し、移動したことはなかった。国際的ガイドラインに従った疫学的調査が開始された。当該農場で出生または生育した593頭について出生および飼料コホートが実施された。